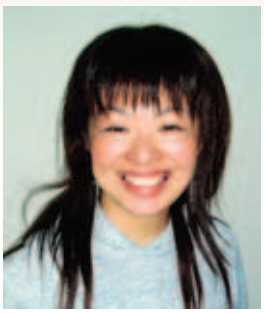
映画『劔岳 点の記』
富山のテレビ局が全力で応援する木村監督の〈想い〉

富山テレビ
山本 美帆



私が木村大作監督と出会ったのは，2007年4月，立山の標高2300メートルにある山小屋天狗平山荘でした。私は山スキーを楽しむために山に上がりました。しかし，ホワイトアウトの悪天候，待機を余儀なくされました。しかし，これが，運命の出会いだったのです。

冬山の実景を撮影に同じ天狗平山荘に宿泊していた映画「劔岳 点の記」のスタッフの方々も，悪天候で撮影に出ることができずに同じ談話室で待機中でした。ちょうど時間に余裕があった監督は，私に映画の話を情熱的に話してくださいました。

監督の映画にかける熱い想いを知り，監督に魅かれた私は，映画「劔岳 点の記」の取材したいと思うようになりました。

富山のテレビ局では，やはり「富む山」と書く県であることからもご想像がつくと思いますが，山の取材は欠かせません。これまでも数々の山の番組を制作してきています。しかし，それは，誰もができるものではないのです。どの局にも，山に強いディレクター，カメラマンがいて，大抵の山の取材はその人たちに任されるのです。だから女の私に取材できるのか……もちろん不安はありました。

次に私が監督にお会いしたのは，山の上での撮影を終えられた4月30日，劔岳の全景を望むことができる馬場島でした。「監督はこの映画で何を描きたいんですか？」。「劔岳 点の記」という物語も知らなかった私が聞いた質問です。「悠久の自然，はかない人生」，そう笑って答えてくださいました。また，「人間ね，どれだけ世間的に認められてる人でも自分が今，頂点にいるって思わないものなんだよ。だからね，俺はこの映画「劔岳 点の記」を俺の人生の頂点にしたいと思ってるんだ……」

怒鳴り声がこだまする標高2500メートルの「劔沢」。9月，俳優陣を含めた映画のクランクインが行われた「劔岳 点の記」のスタッフは，山の上での撮影にとりかかっていました。緊張が走る現場，鋭い監督の目……手抜きは許さない，厳しい撮影の現場がそこにはありました。

「怖いカメラマン」，木村さんは，映画界ではそう呼ばれているそうですね。

木村監督と打ち合わせする，香川・長次郎

撮影現場へ，役者さんも重い荷物を分担する

確かに厳しい人です。しかし，取材を続けるうちに監督は怖いだけではないということを感じました。中にあるのは，誰よりも真剣に映画に向き合う自分への厳しさ，そして，あったかい心……

撮影の合間を見計らって，私は俳優さん，そして，スタッフの方々にカメラを向けました。私が浅野忠信さん，そして，香川照之さんにまず聞きたかったのは，「この映画の出演依頼を受けたときどう思ったのか」ということでした。

浅野さんは，「何かこれまでにない，予想ができないことが起こるんじゃないかという気がしたんだ。だからやってみたいと思った」と。これまでも何度か映画をいっしょに作ってきた香川さんは「木村さんがやるっていうんなら，そこに僕が少しでも役に立てるっていうんなら力になりたいと思った」と。

スタッフの方々は……「名前を覚えてくれるんだよね。全員を名前で呼んでくれるのがうれしい。それだけ俺たちのことを一人ひとりを見てくれているから，難しい現場に出くわしたときでも木村さんのためにがんばりたいと思うよ」

「スタッフ全員で映画を作り上げよう，心は一つになっていました」。

「大自然の中をもくもくと，もくもくと歩いている人の姿を見ると涙が出てくるんだよね。なんだろうね。これ，なんなんだろうね……」剱岳を背に監督がおっしゃった言葉です。

監督が教えてくださった「悠久の自然，はかない人生」。私は，大自然の中でこの言葉の意味が少しずつ分かるような気がしてきています。大きな山の中で小さな人間がコツコツとやった仕事の大きさ……多くの映画を一つずつ作り続けてきた木村監督の人生……監督は，測量隊の仕事に自らの人生を重ね合わせて，この映画に臨んでいらっしゃるのではないでしょうか。

撮影は，去年，測量隊が山の下見をした部分を撮り終え，この4月からは，実際に測量をするシーンの本格的な撮影に入ります。測量のやぐらなども実際に建て，俳優さんも増えてこれまで以上に大変な撮影になると予想されます。そして，もちろん私の取材でも困難が増えるでしょう。私は，富山のテレビ局に勤めていて，監督と出会い，監督を取材できる……私は，この春から，今の私ができる仕事，私にしかできない仕事に全力をかけて挑みたいと思っています。

山本 美帆　富山県生まれ。
富山テレビ放送　報道制作局制作部

写真は富山テレビ提供